

# 高梁川流域キッズ

たかはしがわりゆういき

高梁川流域ゆかりの

いじん けんじん とくしゅう

偉人・賢人特集



活躍した年:

1912~1996年



活躍した分野:

木工芸家



ゆかりのある場所:

倉敷市大野昭和斎記念資料館



おおの しょうわさい  
大野 昭和斎

新高総早 倉敷市  
見梁社島 掛原口庄岡  
市市市町 町市市町市



おおのしょうわさい めいじ ねん さしものし さいさぶろう ちょうなん そうじゃし う  
大野昭和斎は、明治45（1912）年に指物師の斎三郎の長男として総社市に生まれま

した。

しょうがっこう そつぎょう どうじ さしものし ちち もっこうげい みち はい しょくにんかたぎ てっ  
小学校を卒業と同時に、指物師の父について木工芸の道に入りましたが、職人氣質に徹し  
ちち ねんしょう わ こ きび たいど せつ じぶん も もくちくこうげい ぎじゅつ すべ しご  
た父は年少の我が子にも厳しい態度で接し、自分の持つ木竹工芸の技術の全てを仕込みまし  
う そしつ しょうわさい しょうがいちち ひとり ししょう もと すべ どくそう し  
た。生まれつき素質があった昭和斎は、生涯父のほかに一人の師匠も求めず、全て独創で至  
こう げいじゅつ とうたつ  
高の芸術に到達したのです。

かれ せいしゅんじだい さいのう みぬ とうじだいいっきゅう えし ぶん  
彼の青春時代、その才能がただものでないと思抜いたのは、当時第一級の絵師であり、ぶん  
じん ゆのきぎょくそん ぎょくそん しょうわ めいこう い こ しょうわさい がごう がか  
人であった柚木玉邨でした。玉邨は「昭和の名工たれ」との意を込めて昭和斎の雅号（画家  
ほんみょういがい つ ふうりゅう べつめい おく  
などが本名以外に付ける風流な別名）を送りました。

しょうわ ねん だい かいめにほんでんとうこうげいてん ぶきうるしきよこうぼん はじ にゅうせん  
昭和40（1965）年、第12回日本伝統工芸展に「拭漆櫛香盆」で初めて入選すると、  
しょうわ ねん だい かいめにほんでんとうこうげいてん ぶきうるしくわがざりぼこ にほんこうげいかいちょう  
昭和43（1968）年には、第15回日本伝統工芸展で「拭漆桑飾篋」が日本工芸会会長  
しょう じゅしょう もっこうげい だいいちにんしゃ ちい  
賞を受賞し、木工芸の第一人者としての地位をゆるぎないものとなりました。

しょうわ ねん おかやまけんじゅうようむけいぶんかざい してい き こころ し めいしょう  
昭和52（1977）年には、岡山県重要無形文化財に指定され、木の心を知った名匠・  
おおのしょうわさい ぎじゅつ おおやけ ぼそん こうしん つた ぎそ かくりつ ねんご  
大野昭和斎の技術が公に保存され、後進に伝えられる基礎が確立しました。それから7年後  
しょうわ ねん ぞくじ もくめちんきんざぼう かんせい くに じゅうようむけいぶんかざい にん  
の昭和59（1984）年には、独自の空目沈金技法を完成させ、国の重要無形文化財（人  
げんこくほう にんてい う  
間国宝）の認定を受けました。

さしもの くりもの もくぞうがん かくしゅ ぎほう たく く あ でんとうぎじゅつ う つ げん  
指物、削物、木象嵌など各種の技法を巧みに組み合わせ、伝統技術の受け継ぐとともに現  
だいてき ぞうけいかんかく も こ さくひん しょうわさいご すぐ こうげいにん いま おお ひとびと あい  
代的な造形感覚を盛り込んだ作品と昭和最後の優れた工芸人として今も多くの人々に愛され  
ています。